

◎山に関する本を集めよう

山登りを楽しむためには、頭で考えるよりまず行動してみることが大切である。しかし、しばらくしたら山に対する知識を身に付けることも重要である。山の遭難なども、ある予備知識の有無によって生死を分ける場合が多いからである。山登りをより安全に行う為には、先輩諸氏からのアドバイスや、山に関する書籍で、又経験を通じ自分の中で知識を高めておく必要がある。山岳書には多くのジャンルがあり、全てを求めるのは金銭的にも大変である。ここでは主な物について一部を解説してみよう。

A. 登山に関する本

① 登山地図

少し有名な山になると、昭文社の登山地図が有用である。登山ルートは勿論いろんな情報が満載である。近隣の山との位置関係も分かるし、登山道も最新の物が載っている。但し10年以上前の発行年度の物は買い換えよう。北は「利尻・羅臼・斜里・阿寒」から南の「屋久島・種ヶ島」まで68の地域を区切って表されている。必要な時に買い足して行くと結構たまり、便利に使える。

② 地形図

2万5千分の1の地形図は登山の時持って行って欲しい。ちゃんとした物を買わなくとも、国土地理院のデータからその山の必要部分をダウンロードして携行しよう。ただ、これらは更新されない地域もある為、登山道が古いままなので注意して、登山地図等と併用して使うようにしよう。

③ 山の解説本

これは各社から沢山の山の本が出版されている。「日本百名山」、を始めとして「花の百名山」であったり、「山梨百名山」のような各地方の山、北アルプスや南アルプスの各山々の解説本、ハイキングの紹介本、関東周辺の山等数えきれない。これらも必要な時に買っておけば長く使用する事が出来る。少し専門的になるが、岩登りや、沢登り、冬山、氷壁等の解説書等も多数あり必要な時に購読して読んでおくとういだろう。

④ 山の雑誌

「山と渓谷」、「岳人」、「新ハイキング」等各シーズン毎お勧めの山を紹介してくれる。最新情報なので行きたい山が紹介されていたら利用すると便利である。ただ、全国規模で紹介されているので現地は混雑する場合がある。

⑤ その他

あと山に関しては、「運動生理学」や「レスキューテクニック」「救急対応」「山の写真集」「山の気象」などいろいろあるので興味が有ったら読んでみるようになる。又最近、スマホによるGPS機能の向上が顕著で、研究の余地がある。

B. 趣味のまつわる部分

① 高山植物等

山に登る楽しみの1つに高山植物と出合えるメリットがある。勿論時期は限られるが美しい花々を見ると心が洗われ、疲れが癒される。是非、高山植物に興味を持って欲しいし、花の名前を覚えて欲しい。コツは繰り返し見る事に尽きる。そして不明な花は写真に撮り持ち帰り、本で調べてみよう。各社からいろんな本が出版されているが、一冊では中々ヒットしない場合が多い。やはり花と葉がちゃんと載っていなかったり、本により記載内容が異なる場合があり、花名を見つけるため、本の種類がだんだん増えることになる。複数の本で写真を見比べたりしてやっと特定できる場合が多々ある。

② 他

花の他に「樹木」も奥が深い。これは季節感が花より長いので覚えやすい。又、「鳥」「苔類」等自然に関する本はいくらでもある。ボケ防止のためにも暇を見つけては読んで蘊蓄を深めて欲しい。図書館等も大いに利用しよう。

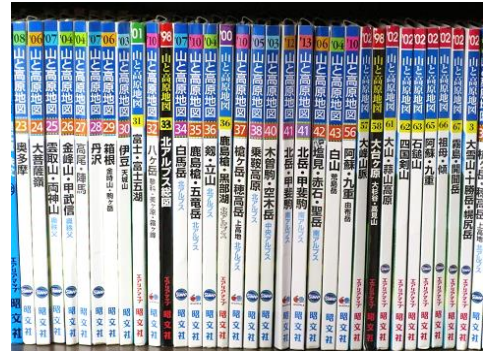
C. 山の文学に関する書籍

① 山岳小説

山に関する小説は数多く発表されている。中でも輝いているのが新田次郎であろう。著名な登山家をモデルにした物から山岳小説まで幅広い著作がある。一度は読んで欲しい作家である。

② 自伝的小説

著名な登山家が自己の歩みを書き下ろした本も数多い。これらはノンフィクションとして生と死の狭間をリアルに表現しており、読んでいて感動を感じる。



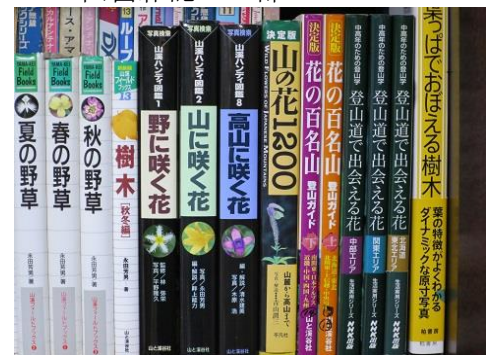
昭文社の登山地図一部



登山ルートの解説書一部



山岳雑誌の一部



高山植物の解説書一部



山岳小説の一部